

相貌特徴が魅力判断および性格判断に与える影響

筑波大学大学院(博)心理学研究科 宮本 聡介

筑波大学心理学系 山本真理子

The effects of facial features on attractiveness and personality judgements

Sousuke Miyamoto and Mariko Yamamoto (*Institute of Psychology, University of Tsukuba, Tsukuba 305, Japan*)

The present study intended to investigate the effects of facial features on attractiveness and personality trait judgements. 179 undergraduate students (male = 107 and female = 72) were employed as subjects. The subjects were instructed to rate 4 stimulus persons on 3 scales: (1) Attractiveness Scale (AS), including two types of item, beauty and preference; (2) Facial Features Rating Scale (FFRS), containing 23 items; and (3) Personality Scales (PS), with 20 items. The 4 stimulus persons were randomly chosen from 52 female pictures which had appeared in various fashion magazines. With 460 combinations of FFRS and PS, 93 combinations significantly correlated. The findings of the present study were considerably different from the findings of previous study (Hayashi, 1977), specifically in terms of the relationships between FFRS and PS. 15 items from FFRS significantly correlated to beauty (AS). It was also found that attractiveness (beauty and preference) mediated between some dimensions of facial features and some dimensions of personality.

Key words: facial features, stereotypic judgements of personality, attractiveness.

本研究は目の大きさや顔の輪郭など、顔の各部位の形態的な特徴に注目し、それぞれの相貌特徴が魅力判断および性格特性判断に与える影響を検討する。

身体的特徴が対人判断の情報として利用されている事がこれまでに言われている。その中でも相貌特徴が対人判断に与える影響は重要である。これまでの研究では相貌特徴が対人判断に与える影響として2つの点が検討されている。

1つは相貌特徴が顔全体の魅力判断に与える影響である。例えばCunninghamら(Cunningham, 1986; Cunningham, Barbee, & Pike, 1990)は相貌特徴のうち目の面積、両眼間隔、顔の長さ、顔の横幅などの物理的な指標と顔全体の魅力度との関係を検討した。その結果男女とも目の面積、頬骨の幅などで魅

力度と正の相関がみられ、また男性ではあごの面積、あごの長さ、女性では両眼間隔などと魅力度との間に正の相関があることが示されている。このことから目の大きさや、顔の形態などの相貌特徴が魅力判断と関連していると考えられる。

一方相貌特徴と性格判断がステレオタイプ的に結びついている事を示す研究もある(大橋・三輪・長門・平林, 1972; 大橋・長門・平林・吉田・林・津川・小川, 1976; 大橋・吉田・鹿内・平林・林・津村・小川, 1977; 林・津村・大橋, 1977; 林, 1978)。例えば林ら(1977)は4人の女性写真の相貌特徴の各部位の評定を因子分析することによって5つの相貌次元を抽出し、それぞれの次元と性格特性次元との関連性を検討した。その結果、ほっそりして目鼻立ちの整った人は、積極的に親しみやすく責

任感があり、気長で知的だと思われやすいこと、口が小さくて下がり目の人は消極的で気長だと思われやすいことなどが示されている。また林(1978)の研究ではマンガ絵を刺激材料にして相貌と性格判断の関連性を検討した。その結果ここでもそれぞれの部位が性格判断とステレオタイプの結びついている事が示されている。このように相貌特徴は当該人物の外見的手がかりを提供するにすぎないのに、特定の部位が当該人物に対する性格判断とステレオタイプの結びついていることが示されている。

以上のように相貌特徴は対人判断の中でも魅力判断、性格特性判断に影響を与える事が指摘されている。そこで本研究も相貌特徴が対人判断に与える影響として、魅力判断、性格特性判断の2つを問題にする。ところで魅力判断と性格判断が相貌特徴をもとになされているとすると、魅力判断と性格判断の間には関連性はないのだろうか。これまでの研究ではこの両者の関連については詳細な検討がなされていないように思われる。しかし魅力判断、性格判断は相貌特徴を手がかりとした認知者側の内的な判断過程である事から、魅力、性格特性の間にも方向性は明らかではないが、何らかの関連性があると仮定する事は可能であろう。そこで本研究では魅力判断と性格判断の関連性もあわせて問題にする。

上記の関連性を検討する方法としては林ら(1977, 1978)の方法が有効であろう。林らは相貌特徴と性格特性を質問紙によって被験者に評定させ、そこから因子分析などにより相貌次元と性格特性次元の関連性を包括的にとらえた点で、関連構造全体を把握しやすい。そのためこれらの先行研究と結果を比較する事は容易でしかもわかりやすいだろう。しかし林ら(1977)の実験で用いた刺激人物は4人と少なく、相貌特徴とステレオタイプの性格判断の関連性は示しているが、その具体的な中身については必ずしもこの結果だけでは一般化できないだろう。また林(1978)の実験で用いられた刺激はマンガ絵であった。マンガ絵などのような作図による刺激は実験条件を統制するという意味では有効であるが、顔の特定の部位の特徴を極端に目立たせ、現実の顔を越えた表情を作ってしまう恐れがある。その点ではやはり写真などによる刺激の方が有効であると考えられる。

そこで本研究では林らの方法に準じ、刺激材料として写真を用い、50人以上の刺激人物を用いて検討を行うことで相貌特徴と性格判断のステレオタイプの関連性及び、相貌特徴と魅力の関連性を確認する。同時に性格判断と魅力判断の相互の関連性についても検討する事で、相貌特徴が対人判断に及ぼす

影響を構造的に検討する。

但しこの時「顔の魅力」の示すものについてもその内容を示しておく必要があるだろう。これまで顔の魅力といった場合には美醜を問題にすることが多かったように思える。しかし魅力度といった場合単純に美しいかどうかだけでは示されない点もある。例えば自分にとっての好みの問題は美しさとは別の判断がなされる可能性がある。そこで本研究では魅力度と言った場合、「美しさ(beauty)」と「個人的好ましさ(preference)」という2つの側面から問題を検討する。

方法

被験者：大学生179名(男性107名 女性72名)

刺激人物の選択：1992年秋期に発売されたファッション雑誌の中から約200人の女性の顔写真を選択し、「正面から撮影されていること」、「わずかに微笑んで歯が見えること」、「眼鏡をかけていないこと」などを条件に52人の刺激人物を選択した。これらの写真を縦6.5センチ、横4.5センチの大きさに白黒で拡大コピーし刺激写真とした。

尺度：本研究では魅力度尺度、相貌評定尺度、性格特性尺度の3尺度を用いた。魅力度尺度は2項目からなっている。1つは「美しさ」を測定する項目であり「あなたはこの女性を美しいと思いますか」という内容にした。2つ目は「個人的好ましさ」を測定する項目で「あなたはこの女性は個人的に好きになれそうな気がしますか、それとも嫌いになりそうな気がしますか」とした。「美しさ」項目では「非常に美しい」から「非常に美しくない」までの7件法で評定させた。同様に「個人的好ましさ」項目では「非常に好きになれそう」から「非常に嫌いになりそう」までの7件法で評定させた。また分析にあたり魅力度が高いほど高得点になるように尺度を得点化した。

相貌評定尺度は林(1977, 1978)で用いられた相貌尺度を参考に、顔写真による相貌を評定する上で適当と考えられる項目を取捨選択し、新しい項目もつけ加え最終的に23項目を用いSD法の7段階で評定させた。

性格特性尺度は林(1978)と同様のものを用いSD法で7段階で評定させた。

手続き：質問紙法により1人の被験者に52人の刺激人物のうち4人の刺激人物について評定させた。被験者はこの質問紙を魅力度尺度、相貌評定尺度、性格特性尺度の順に評定した。調査の実施にあたり1人の被験者に提示する4人の刺激人物の組み合わせ

せおよび提示順序はランダムに割り当てられるようにした。

分析方法：52人の刺激人物は1ケースだけ合計9人による評定であったが、残りの51人の刺激人物は12~15人によって評定された。分析は林ら(1977)を参考に、179人の評定によって得られた716(179×4)サンプルを対象に以下のような分析を行った。

- (1)相貌評定尺度と性格特性尺度の項目間の相関分析
- (2)相貌評定尺度の因子分析
- (3)性格特性尺度の因子分析
- (4)相貌評定尺の各因子(因子得点)と性格特性尺度(因子得点)
- (5)相貌評定尺度の各項目と魅力度との相関分析
- (6)相貌評定尺度の3因子と魅力度との相関分析
- (7)性格特性尺度の各項目と魅力度との相関分析
- (8)性格特性尺度と魅力度との相関分析
- (9)パス解析による3者間の関連構造の分析

但し、本研究では相関分析にあたり716サンプルと多くのサンプルを用いて分析を行っているため比較的小さな相関係数でも有意な値を示す。そのため基本的に1%水準で有意な相関係数の値を示した結果を中心に考察を行った。

結果と考察

相貌と性格特性の関連性

Table 1は相貌評定尺度と性格特性尺度の各項目間の相関係数を示す。さらにTable 1には本研究で示された相関係数と林ら(1977)の相関係数のうち関連の方向が一致ししかも有意な相関を示したものに網掛けを施した。

まず本研究の分析の結果2つの尺度の全ての組み合わせ(460組)のうち93組(20.2%)で有意な相関がみられ、相貌特徴と性格特性との間にステレオタイプの判断過程がある事が確認された。なかでも相貌評定尺度の「色の白い」は性格特性尺度の13項目と、また「下がり目の」は性格特性尺度の12項目と有意な相関が見られた。一方相貌評定尺度のうち「骨の細い」「面長の」といった項目は性格特性尺度と有意な相関は見られず、相貌のなかでも性格特性と結びつきやすい特徴と結びつきにくい特徴があるように見受けられる。

林ら(1977)の結果と比較すると、本研究では1%水準で有意な相関を示した組み合わせが全体の約20%だったのに対し、林ら(1977)では1%水準で有意だった相関が全体の約50%と多い。また林ら

(1977)と本研究で共通に用いられた項目の組み合わせ(105組)の中から相関係数の関連性の方向が一致したものを見ると、口が大きいと積極的、口元が引き締まっていると積極的で知的、色白と知的、目が小さいと親しみにくい、下がり目と親切の6組(5.7%)だけであった。またTable 1には示していないが有意でなかった相関係数について符号の向きだけを単純に比較しても一致しない項目が多かった。この事から、従来言われているように相貌特徴が性格判断に結びつきやすいとは言えず、また関連性の内容についても林ら(1977)とはかなり異なっていると考えられる。相貌特徴と性格判断が結びつきにくい点について現在では認知者が相貌特徴によるステレオタイプの判断を行わなくなってきている事を示唆しているかも知れない。また関連の内容が異なったことから相貌次元、性格特性次元の構造もこれまで報告されているものとは異なっている可能性がある。そこで次に相貌評定尺度を因子分析する事によって相貌次元の抽出を試みた。

相貌評定尺度の因子分析

相貌評定尺度を因子分析した結果(主成分分解, Varimax法)固有値1以上を基準に4因子が抽出された。Table 2には本研究の因子分析の結果と林ら(1977)で示された因子およびそれぞれの因子に含まれる項目のうち負荷量が0.4以上のものに○印を表記してある。この4因子により全分散の約42%が説明された。第1因子は「頬のこけた」「面長の」「顎のどがった」など、ほっそりした顔に関連する項目に負荷量が高いことから「ほっそりした顔因子」と解釈できる。第2因子は「口の大きい」「眉の濃い」「眉の太い」「鼻の大きい」など、各部位の大きさと濃さに関連する項目に負荷量が高いことから「各部位の大きさと濃さ因子」と解釈できる。第3因子は「目のパッチリした」「口元の引き締まった」など、目と口元の鮮明さを示す項目に負荷量が高いことから「目と口元の鮮明さ因子」と解釈できる。第4因子は「ストレートヘアの」「髪長い」「鼻筋のとおった」など髪長さや整った鼻の特徴を表現する項目に負荷量が高いことから「整った鼻と長髪因子」と解釈できる。林ら(1977)では相貌特徴の尺度から「ほっそりして目鼻立ちの整った因子」「色白で目元のはっきりした因子」「ふっくらした感じ因子」「口が小さくて下がり目因子」「口元のしまりのなさ因子」の5つの因子が抽出されている。本研究で用いた項目と林ら(1977)で用いた項目は一致していないので一概に比較することは出来ないが各項目で比較した場合、本研究の4因子と林ら(1977)の5因子にははっきりした対応関係は見られないが、抽出

Table 1 相貌評定尺度と性格特性尺度の相関

	心の広い	明るい	さっぱりした	親しみやすさ	親切な	感じのよい	ユーモアのある	柔らかな	責任感の強い	我慢強い	真面目な	控えめな	信頼できる	知的な	落ち着いた	誠実な	自信のある	積極的な	意欲的な	意志が強い
顔の太い	0.06	0.11**	0.01	0.04	0.03	0.01	0.09	-0.04	0.01	0.03	0.02	-0.06	-0.00	0.02	-0.02	0.04	0.04	0.03	0.05	0.10**
眉の濃い	0.03	0.11**	0.00	0.03	-0.03	-0.01	0.06	-0.10	-0.00	0.01	-0.00	-0.17***	-0.03	0.02	-0.04	-0.01	0.15***	0.12**	0.12**	0.15***
口の大きい	0.09	0.22***	-0.00	0.06	0.06	-0.04	0.16***	0.01	-0.04	-0.12**	-0.07	-0.17***	-0.04	-0.08	-0.15***	-0.03	0.06	0.14***	0.14***	0.07
顔の大きい	-0.01	0.02	-0.15***	-0.05	-0.11**	-0.12**	-0.03	-0.08	-0.05	-0.05	-0.01	-0.12**	-0.08	-0.11**	-0.01	-0.03	0.04	0.04	0.05	0.00
唇の濃い	-0.00	0.03	-0.05	0.02	-0.00	-0.06	0.09	-0.00	-0.05	0.03	-0.03	-0.12**	-0.08	-0.09	-0.10**	-0.08	-0.03	0.03	0.07	0.01
色の白い	0.06	-0.12**	-0.08	0.07	0.10**	0.09	-0.10	0.13***	0.11**	0.16***	0.22***	0.21***	0.15***	0.19***	0.20***	0.17***	-0.11**	-0.15***	-0.03	-0.02
髪の色	-0.05	-0.04	-0.05	-0.07	-0.07	-0.06	-0.13***	-0.09	0.09	0.00	0.01	-0.10	-0.04	0.02	-0.01	-0.03	0.08	0.12**	0.08	0.16***
太った	0.09	-0.01	-0.13***	0.02	-0.01	-0.04	0.02	0.04	-0.04	-0.01	0.04	0.01	0.01	-0.09	-0.08	0.01	-0.08	-0.00	-0.01	-0.04
鼻筋の通った	-0.01	0.05	0.12**	-0.01	0.03	0.02	0.02	0.04	0.04	-0.01	0.01	0.00	0.03	0.07	-0.01	-0.00	0.08	0.06	0.04	0.04
目の細い	-0.04	-0.07	0.07	-0.01	-0.00	0.04	-0.07	0.00	-0.03	0.01	0.00	0.09	-0.04	0.07	0.05	-0.00	-0.01	-0.07	-0.04	-0.04
下がり目の	-0.10	-0.07	0.08	-0.09	-0.04	0.03	-0.06	-0.09	0.02	0.05	-0.02	-0.01	-0.02	0.08	0.06	-0.04	0.09	-0.03	-0.00	0.01
顔の緩い	-0.10**	-0.10**	0.08	-0.08	-0.07	-0.05	-0.14***	-0.09	0.00	0.02	-0.03	0.01	-0.06	0.11**	-0.01	-0.09	-0.02	-0.06	-0.07	-0.01
顔の低い	-0.00	0.01	-0.09	0.06	-0.02	0.02	-0.04	-0.03	0.04	-0.06	-0.05	-0.01	-0.03	-0.05	-0.03	-0.03	-0.04	-0.03	0.01	-0.02
目のパッチリした	0.01	0.20***	0.12***	0.16***	0.05	0.08	0.14***	0.08	0.05	-0.04	0.02	-0.02	0.07	0.04	-0.06	0.00	0.15***	0.20***	0.13***	0.13***
目の小さい	-0.04	-0.22***	-0.10	-0.08	0.08	-0.06	-0.14***	-0.08	-0.07	0.01	-0.05	0.08	-0.04	0.02	0.04	-0.02	-0.12**	-0.15***	-0.11**	-0.09
つぶらな目の	0.25***	0.08	0.15***	0.19***	0.08	0.19***	0.05	0.23***	0.06	0.06	0.14***	0.15***	0.19***	0.04	0.10	0.22***	-0.17***	-0.07	-0.03	-0.05
目の引き締まった	0.05	-0.02	0.04	0.01	-0.08	0.03	0.02	-0.10**	0.07	0.02	0.01	-0.05	0.05	0.08	0.02	0.01	0.17***	0.12**	0.19***	
顔の緩い	-0.07	-0.09	-0.08	-0.10**	-0.05	-0.09	-0.06	-0.02	-0.02	-0.08	-0.05	0.05	-0.06	-0.02	-0.03	-0.10**	-0.09	-0.15***	-0.09	-0.06
顎のとがった	-0.10	-0.02	-0.03	-0.09	-0.10	-0.04	-0.11**	-0.15***	-0.03	-0.05	-0.04	-0.05	-0.08	0.03	-0.04	-0.10	0.01	0.02	0.05	0.00
髪の長い	-0.09	-0.06	-0.08	-0.06	-0.09	-0.02	-0.07	-0.06	-0.11**	-0.06	-0.04	-0.01	-0.12**	-0.09	0.02	-0.10	0.03	-0.02	-0.01	-0.09
ストレートヘアの	0.00	0.02	0.13	0.04	0.11**	0.08	0.00	0.07	0.05	0.10**	0.10	0.03	0.05	0.05	0.07	0.09	-0.00	-0.03	0.04	0.03
顔の大きい	0.02	0.07	-0.01	-0.00	-0.01	-0.06	-0.09	-0.05	0.02	-0.03	-0.01	-0.13***	-0.02	-0.06	-0.02	-0.04	0.12***	0.14***	0.08	0.10**
ぼつちりした	0.12**	0.07	-0.10	0.06	0.06	0.01	0.12**	0.13***	-0.01	0.00	0.06	0.01	0.06	-0.11**	-0.07	0.08	-0.09	-0.02	-0.02	0.06

** p < 0.01, *** p < 0.001

注: 網掛けのかかっている項目は本研究と林(1977)で共通に用いられた項目を示す。また網掛けのかかった相関係数は本研究と林(1977)で関連性の方向が一致ししかも1%水準で有意だった相関係数を示す。

された因子レベルでの解釈も総合すると「ほっそりした顔因子」は「ふくらした感じ因子」と、また「目と口元の鮮明さ因子」は「色白で目元のはっきりした因子」に対応していると解釈することができそうである。またこの2つの判断次元は林(1978)でも「顔の丸さと凹凸のなさ因子」「目元の鮮明さ因子」などで共通にみられる。つまり、相貌の認知次元として顔のふくよかさに関連する次元と、目の鮮明さに関する次元は比較的安定して抽出されている次元であることからこの2つの次元が相貌特徴の重要な判断次元であると考えられる。

性格特性尺度の因子分析

性格特性尺度を因子分析(主成分分解, Varimax 回転)した結果を Table 3 に示す。第1因子は「真面目な」「我慢強い」「知的な」などの項目に負荷が高く、知性、忍耐力など社会的な望ましさに関連する因子であることから「望ましさ因子」と解釈する。第2因子は「明るい」「ユーモアのある」「心の広い」「さっぱりした」など明朗性、心の広さなど親しみやすさを表現する項目に負荷が高いことから「親しみやすさ因子」と解釈する。また第3因子は「自信のある」「意欲的な」「意思が強い」「積極的な」など積極性、意思の強さ表現する項目に負荷が高いことから「活動性因子」と解釈する。以上の3因子はほぼ林(1978)の3因子(社会的望ましさ、個人的親しみやすさ、力本性)に対応している。このことから、本研究で示された3因子は性格特性に関する判断次元としては

安定した次元である事が確認された。

相貌次元と性格特性次元の関連性

次に相貌評定尺度の4因子(因子得点)と性格特性尺度の3因子(因子得点)との関連性を Table 4 に示す。「望ましさ因子」では相貌評定尺度の各因子との間に特徴的な関連性はない。「親しみやすさ因子」では「ほっそりした顔因子」との間に有意な負の相関が見られた。また「活動性因子」では「ほっそりした顔因子」「各部位の大きさ」と濃さ因子」「目と口元の鮮明さ因子」との間に有意な正の相関がみられた。特に「各部位の大きさ」と濃さ因子」および「目と口元の鮮明さ因子」は「活動性因子」との相関が高い。このことは、顔や、口などが大きく、眉が濃い事、あるいは目がパッチリして大きくく上がり目で口元の引き締まった相貌特徴からは積極的で意志が強く意欲的だというステレオタイプが喚起されやすいことを示していると考えられる。また、林(1978)でも目元の鮮明さが力本性と有意な相関を示しており、相貌特徴の中でも「目」のつくりは活動性次元を喚起させる重要な要因であることが示唆されよう。

魅力尺度2項目の関連性

はじめに本研究で用いた魅力尺度の2項目間の相関係数を算出した。相関係数は $r = .59$ と中程度の相関を示している。また「美しさ」項目は、顔の美しさを直接判断させているのに対して、「個人的好ましさ」項目は自分にとっての好みを基準に魅力

Table 2 相貌評定尺度の因子分析結果及び林(1977)の5因子との比較

項目	本研究の4因子				林(1977)の5因子				
	I ほっそりした顔	II 各濃さ 各部位の大きさと	III 目鮮明さ と口元の	IV 整った鼻と長髪	I 鼻立ちの整った ほっそりした目	II 色白で目元のは っきりした	III ふくらした感	IV 目が小さくて下	V 口元のしまりな
頬のこけた	0.79	-0.14	-0.07	0.03			-○		
面長の	0.71	-0.01	-0.13	0.12	○				
顎のとがった	0.63	0.04	0.07	-0.05					
骨の細い	0.49	-0.39	0.01	0.14					
太った	-0.69	0.33	-0.18	-0.01			○		
ぽっちゃりした	-0.79	0.18	-0.11	-0.01					
口の大きい	0.04	0.63	-0.01	-0.20				-○	
眉の濃い	-0.09	0.62	0.13	0.35					
眉の太い	-0.24	0.58	0.10	0.41					
唇の厚い	-0.18	0.56	-0.02	-0.11					
鼻の大きい	-0.07	0.52	-0.03	-0.09					
顔の大きい	-0.40	0.51	-0.10	-0.01			○		
髪の硬い	0.06	0.41	-0.05	-0.33		-○			
目のパッチリした	-0.08	0.05	0.85	0.13					
口元の引き締まった	0.15	-0.20	0.43	0.01					○
色の白い	-0.02	-0.07	0.11	0.07		○			
下がり目の	-0.17	-0.02	0.41	0.06				○	
目の小さい	0.12	-0.22	-0.78	-0.04	-○	-○			
ストレートヘアの	0.04	-0.03	0.18	0.69					
髪の長い	0.14	-0.14	-0.02	0.53					
鼻筋の通った	0.42	0.06	0.07	0.47					
額の狭い	-0.07	-0.12	-0.03	0.22	○				
鼻の低い	-0.35	-0.17	0.00	-0.41					
目のまるい					○	○			
背の低い					○				
まつげの長い						○			
鼻の穴の小さい									○
顔のさめの細かい						○			
寄与率	18.8%	9.9%	7.4%	6.0%					

注；負荷量の記載されているものが本研究で用いた項目。網掛けのついているものは林(1977)で用いられたもの。○がついているものは林(1977)において負荷量が0.4以上だったものである。負荷量がマイナスのものには符号を表記してある。

度を判断させている点を考えると「美しさ」項目と「個人的好ましさ」項目が同一の指標を測定していると判断することはできない。そこで以下では「美しさ」項目と「個人的好ましさ」項目とを区別して

結果を解釈する。

相貌特徴と魅力度の関連性

Table 5は魅力度尺度と相貌評定尺度の相関分析の結果を示したものである。相貌評定尺度23項目中

Table 3 性格特性尺度の因子分析結果

	望ましさ因子	親しみやすさ因子	活動性因子
真面目な	0.81	0.19	-0.08
我慢強い	0.75	0.07	-0.05
知的	0.69	0.06	0.07
責任感の強い	0.68	0.24	0.18
落ちついた	0.68	-0.06	-0.13
信頼できる	0.67	0.41	0.01
誠実な	0.67	0.34	-0.03
控えめな	0.60	0.11	-0.50
明るい	0.25	0.70	0.36
ユーモアのある	0.20	0.68	0.22
心の広い	0.30	0.66	-0.07
親切な	0.48	0.63	-0.16
親しみやすい	0.24	0.63	0.02
さっぱりした	0.11	0.63	0.19
感じの良い	0.28	0.61	0.02
素直な	0.35	0.58	-0.30
自信のある	0.14	-0.07	0.79
積極的な	0.21	0.18	0.76
意欲的な	0.10	0.19	0.72
意思が強い	0.40	0.01	0.67
寄与率	30.6%	16.8%	9.8%

Table 5 魅力度尺度と相貌評定尺度の相関

	美しさ	個人的好ましき
眉の太い	0.02	0.06
眉の濃い	0.03	-0.01
口の大きい	-0.02	0.06
顔の大きい	-0.23***	-0.17***
唇の厚い	-0.18***	-0.05
色の白い	0.14**	0.08
髪の高い	-0.17***	-0.11
太った	-0.21***	-0.01
鼻筋の通った	0.19***	0.05
骨の細い	0.14***	0.06
面長の	0.06	-0.01
頬のこけた	0.04	-0.03
鼻の低い	-0.19***	-0.04
目のパッチリした	0.26***	0.15***
目の小さい	-0.18***	-0.14***
下がり目の	-0.01	0.18***
口元の引き締まった	0.21***	0.09
額の狭い	-0.01	-0.02
顎のとがった	0.10**	-0.01
髪の高い	0.14***	-0.03
ストレートヘアの	0.20***	0.11**
鼻の大きい	-0.05	-0.01
ぼつちりした	-0.12**	0.02

** : p < .01, *** : p < .001

Table 4 相貌評定尺度 (4 因子) と性格特性尺度 (3 因子) の相関

	ほっそりした顔	各部位の大きさと濃さ	目と口元の鮮明さ	整った鼻と長髪
望ましさ因子	0.00	-0.09	0.01	0.07
親しみやすさ因子	-0.12**	0.03	0.09	0.04
活動性因子	0.11**	0.23***	0.26***	-0.07

** : p < .01, *** : p < .001

15項目(65.2%)で「美しさ」との間に有意な相関がみられた。中でも特に「顔の大きい」「太った」が美しさと負の相関が見られ「目のぱっちりした」「口元の引き締まった」「ストレートヘアの」などで美しさと正の相関がみられた。一方「個人的好ましき」項目では相貌評定尺度と有意な相関を示しているのは23項目中5項目(21.7%)であり「美しさ」

と比較して有意な相関を示す相貌評定尺度の項目が少ない。このことは美しさの判断と自分にとっての好ましきさの判断は異なることを示していると考えられる。特に「下がり目の」では美しさと有意な相関は見られないが、個人的好ましきさと有意な正の相関がみられる。このことは下がり目であるということは美しさを規定する要因ではないが自分にとっての好ましきさを規定する要因となっていることを示していると考えられる。

相貌次元と魅力度の関連性

Table 6は相貌評定尺度の4因子(因子得点)と魅力度尺度との関連性を示したものである。これによると4因子とも「美しさ」と有意な相関を示している。なかでも「目と口元の鮮明さ」と「整った鼻と長髪」の2因子との相関が高い。それに対して「個人的好ましきさ」は「目と口元の鮮明さ因子」「整った鼻と長髪因子」と有意な相関がみられるが「美しさ」に比べて相関係数の値は小さい。このことから美しさなどの美醜判断は相貌次元からの影響が大き

いが、個人的な好ましさを判断は美しさ判断ほど相貌次元からの影響を受けないと考えられる。

性格特性と魅力との関連性

次に Table 7 は性格特性尺度の各項目と魅力尺度の関連性を見たものである。「美しさ」では性格特性尺度の18項目と有意な相関を示した。また「個人的好ましさを」では性格特性尺度の19項目と有意な相関を示した。特に個人的好ましさと心の広さ、親切さ、感じの良さの相関は高いと言える。

性格特性と魅力度の関連性

Table 8 は性格特性尺度の3因子と魅力尺度の関連性を見たものである。「美しさ」は3因子全てと有意な相関を示している一方「個人的好ましさを」は「親しみやすさ」「望ましさを」の2因子と有意な相関が認められる。特に「個人的好ましさを」と「親しみやすさ因子」の相関は高い。

Table 6 相貌評定尺度の4因子と魅力尺度との相関

	美しさ	個人的好ましさを
ほっそりした顔因子	0.12**	-0.03
各部位の大きさと濃さ因子	-0.11**	-0.05
目と口元の鮮明さ因子	0.28***	0.13**
整った鼻と長髪因子	0.25***	0.11**

** : $p < .01$, *** : $p < .001$

Table 7 性格特性尺度と魅力尺度の相関

	美しさ	個人的好ましさを
心の広い	0.16***	0.40***
明るい	0.22***	0.28***
さっぱりした	0.19***	0.32***
親しみやすい	0.23***	0.28***
親切な	0.18***	0.41***
感じの良い	0.30***	0.41***
ユーモアのある	0.18***	0.26***
素直な	0.13***	0.33***
責任感の強い	0.17***	0.22***
我慢強い	0.13***	0.23***
真面目な	0.18***	0.29***
控えめな	0.14***	0.31***
信頼できる	0.24***	0.39***
知的な	0.21***	0.23***
落ち着いた	0.10**	0.21***
誠実な	0.18***	0.33***
自信のある	0.06	-0.11**
積極的な	0.08	-0.03
意欲的な	0.15***	0.11**
意志が強い	0.17***	0.10**

** : $p < .01$, *** : $p < .001$

以上のように相貌特徴、ステレオタイプのな性格特性は魅力度と関連性があることが示された。なかでも「美しさ」は相貌特徴と、「個人的好ましさを」は性格特性次元の「親しみやすさ因子」との相関が高い。また「美しさ」「個人的好ましさを」の相関も高いことから相貌特徴→美しさ→個人的好ましさを→性格特性という関連性の経路が仮定される可能性がある。そこで相貌特徴次元、美しさ、個人的好ましさを、性格特性次元の構造的な関連性を検討した。**相貌次元、性格特性次元、魅力の関連構造の分析**

Figure 1 は相貌評定尺度の4因子(因子得点)を外生変数とし魅力尺度の2項目および性格特性尺度の3因子(因子得点)を内生変数としてその関連構造を図示したものである。例えば「美しさ」を基準変数とした場合、相貌評定尺度の4因子と性格特性尺度の3因子および魅力尺度の「個人的好ましさを」項目の合計8変数を説明変数として重回帰分析をおこなった時えられた偏相関係数から関連性の方向とその強さを示した。同様に性格特性尺度の「望ましさを因子」を基準変数とした場合には、相貌評定尺度の4因子、魅力尺度の2項目の合計6変数を説明変数として重回帰分析を行った。但しここでは0.1%水準で有意な偏相関係数を採用した。0.1%水準で有意な偏相関係数を採用した点については、本研究のサンプルが716と多く、比較的小さな相関係数でも有意になることから、より厳しい基準の偏相関係数を採用することで相貌次元、魅力度、性格特性次元の関連性をとらえようとしたためである。このようにして作成された関連構造図(Figure 1)からは以下のようなことが考察される。

まず相貌特徴の4因子はすべて「美しさ」を規定する要因となっていることがわかる。なかでも「目と口元の鮮明さ因子」「整った鼻と長髪因子」からの影響力が強い。一方相貌次元と性格特性次元との関連を見ると、「活動性因子」が「各部位の大きさと濃さ因子」「目と口元の鮮明さ因子」の影響を受けているが、「親しみやすさ因子」「望ましさを因子」は相貌次元からの影響は見られない。次に魅力度と性格特性次元との関連性であるが、「美しさ」と「活

Table 8 性格特性尺度の3因子と魅力尺度の相関

	美しさ	個人的好ましさを
望ましさを	0.18***	0.27***
親しみやすさ	0.25***	0.48***
活動性	0.13***	-0.04

** : $p < .01$, *** : $p < .001$

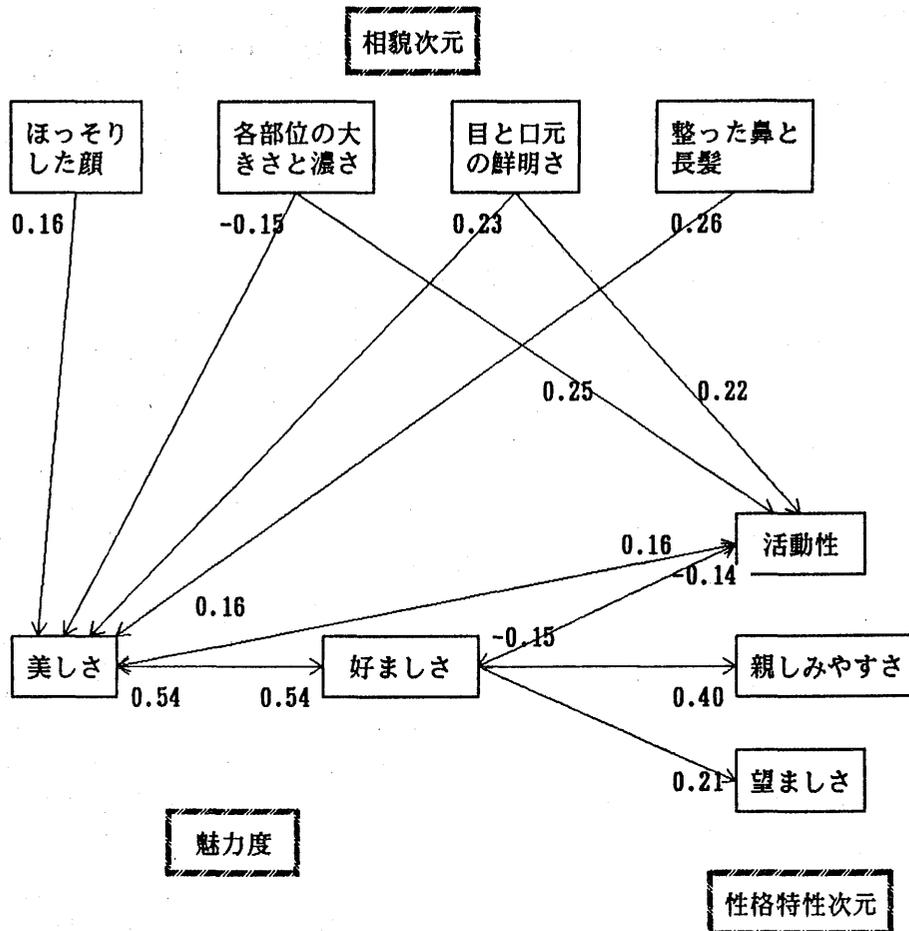


Figure 1 相貌特徴, 魅力, 性格特性の関連構造

動性因子」では相互の関連性がみられる。しかし「美しさ」から他の2因子への影響はみられない。一方「個人的好ましさ」は相貌次元からの影響が見られないが「美しさ」とは相互に強い関連性が見られる。さらに「個人的好ましさ」と性格特性次元とを見ると、活動性とは相互に関連性があり、また「親しみやすさ因子」「望ましさ因子」への影響力がみられる¹。特に「親しみやすさ因子」への影響力は強い。このことは「美しさ」が喚起されることは、意志の強さ積極さなどと結びつくが、親しみやすさや望ましさに直接結びつくのではなく、相手に対する自分の好み判断を媒介として結びつくことを示していると考えられる。また相貌特徴の「各部位の大きさと濃さ」「目と口元の鮮明さ」から活動性への影響力を媒介としたとき「美しさ」と「個人的好ましさ」への影響力の方向が逆転していることは注目すべき

である。このことは口、鼻、顔が大きく眉が太いとき、あるいは目が大きくパッチリして口元が引き締まっていると、積極的、意欲的で意志が強いと判断されがちだが、このことは「美しさ」に正の影響を与えるが「個人的好ましさ」に対しては負の影響を与えることになる。

このように、相貌次元、魅力度、性格特性次元の包括的な関連性が示された。この結果から相貌特徴から喚起されるステレオタイプの性格判断のうち、「親しみやすさ」「望ましさ」に関する次元は相貌特徴次元から直接影響を受けるのではなく、「美しさ」「個人的好ましさ」などの判断を媒介として

1. 本来ここには相互の関連性を仮定する必要があるが性格特性次元の「親しみやすさ」「望ましさ」は相貌次元からの影響力がないため、魅力度への影響力を示すパスを記載していない。

いることが本研究の結果から示された。つまり、相貌特徴からなされる対人判断過程をみると、魅力判断は相貌特徴から直接影響を受けるが、性格判断をみると活動性次元は相貌特徴から直接影響を受けるが、「親しみやすさ」「望ましさ」に関する次元は相貌から直接喚起される判断ではなく、魅力(美しさ・個人的好ましさ)などを媒介とした判断経路がある事が示唆された。特に自分にとっての好ましさが相貌次元、美しさ判断、性格特性次元の媒介要因として重要な働きをしている事が本研究から示唆された。また魅力と性格特性の関連の方向性は「望ましさ」「親しみやすさ」では魅力からの影響が確認されたが、「活動性因子」では魅力との間に相互の影響力がある事が示唆された。このことは「性格美人」といった言葉もあるように、よい性格から喚起される美人のステレオタイプ判断が起きている可能性があることを示唆しているといえる。

要 約

本研究は、相貌特徴が魅力判断と性格判断に与える影響を検討するものであった。

本研究の結果、相貌特徴と性格との間にはステレオタイプの判断過程がある事が確認された。しかし林ら(1977)の結果と比較すると、共通な結果を示したものは数少なく、本研究の結果と林ら(1977)の結果が異なることが示唆された。

相貌評定尺度を因子分析した結果「ほっそりした顔因子」「各部位の大きさと濃さ因子」「目と口元の鮮明さ因子」「整った鼻と長髪因子」の4因子が抽出された。そのうち「ほっそりした顔因子」「目と口元の鮮明さ因子」は先行研究との共通性がみられた次元であり、相貌判断において重要な次元である事が示唆された。

性格特性尺度の因子分析の結果「望ましさ因子」「親しみやすさ因子」「活動性因子」の3因子が抽出された。この因子は先行研究でも共通にみられた因子であり、この3因子が対人判断において安定した因子である事が確認された。

顔の各相貌特徴は魅力のうち美しさ判断と関連性があることが示された。一方魅力度のうち個人的好ましさ判断は性格判断の「親しみやすさ」と高い関連性がある事が示された。そこで相貌次元、性格特

性次元、魅力度の相互の関連性を検討した結果、相貌は性格判断にそれほど強い影響力を持っているわけではなく、それよりも相貌特徴は「美しさ」「個人的好ましさ」などの魅力要因を媒介として「親しみやすさ」「望ましさ」の2次元と関連していることが示唆された。

引 用 文 献

- Cunningham, M.R. 1986 Measuring the physical attractiveness: Quasi-experiments on the sociobiology of female facial beauty. *Journal of Personality and Social Psychology*, **50**, 925-935.
- Cunningham, M.R., Barbee, A.P., & Pike, C.L. 1990 What do woman want?: Facial metric assessment of multiple motives in the perception of male facial physical attractiveness. *Journal of Personality and Social Psychology*, **59**, 61-72.
- 林 文俊・津村俊充・大橋正夫 1977 顔写真による相貌特徴と性格特性の関連構造の分析. 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), **24**, 35-42.
- 林 文俊 1978 相貌と性格の仮定された関連性—漫画の登場人物を刺激材料として—. 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), **25**, 41-55.
- 大橋正夫・三輪弘道・長門啓子・平林 進 1972 写真による印象形成研究—序報—. 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), **19**, 13-25.
- 大橋正夫・長門啓子・平林 進・吉田俊和・林 文俊・津村俊充・小川 浩 1976 相貌と性格の仮定された関連性(1) 一対をなす刺激人物の評定値の比較による検討—. 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), **23**, 11-25.
- 大橋正夫・吉田俊和・鹿内啓子・平林 進・林 文俊・津村俊充・小川 浩 1977 相貌と性格の仮定された関連性(2). 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), **24**, 23-33.

—1993. 9. 30受稿—

付 記

本論文の調査にあたり梶千鶴さん(平成3年度筑波大学人間学類卒業)の協力を得ました。ここに感謝します。